

2022年度 事業報告

(自 2022年4月1日)
(至 2023年3月31日)

期末会員数は前年比7人減の485人。

現読者の固定化、新規読者の獲得、配達網の維持に取り組んでいる一方で、会員の高齢化、後継者難で会員数の減少が進んでいる。

会員の全従業員数は北海道新聞が昨年10月実施した調査によると13,870人で前年比721人減(前年は527人減)と減少が続いている。

特定退職金制度の加入者は所員・パート合計で3,460人、前年比215人減。全従業員数に占めている加入率は24.9%、前年は25.0%。

資金運用面では現保有債券の運用利回りを上回る債券の発行があり、3件3億円の入替え及び1件1億円の売却を行い、余裕資金の一部で1件5千万円の債券を取得した。

世界的な金利の上昇で債券価格の下落したことで期末含み損が1億4百万円になっているが、満期保有を原則としているので、元本毀損ではない。

公益目的事業会計は公益財団法人 札幌交響楽団に300万円の寄付を行った。

所員退職金共済

総加入者は546人で前年比37人減少。

総口数は7,014口、前年から172口減少。一人当たりの口数は12.8口。

退職者数は54人、前年比6人増。退職金給付総額は1億289万円で前年比2,258万円減。

一人当たり退職金は190.5万円(前年は256万円)。

パート退職金共済

総加入者は2,914人で前年比178人減少。

総口数は26,466口、前年から1,528口減少。一人当たりの口数は9.1口。

加入販売店は139店で前年から5店減少。

退職者数は354人、前年比19人減。退職給付総額は5,810万円で前年比129万円減、一人当たり退職金は17.6万円(前年は18.3万円)。

以上、当協会の主要部門である特定退職金共済2部門は資産残高、加入者数共減少傾向にあり、会員各位の協力をお願いしたい。

交通労災共済（見舞金制度）

加入者数は前年比724人減の13,935人。見舞金給付件数は前年比2件増の49件、給付額は121.5万円（前年は145万）。内容面では、90日以上の治療を要した見舞金8万円1件、他は軽度の事故。

事故啓発活動として「北海道飲酒運転ゼロ計画」に協賛し販売所にポスターの配布を行った。

民間傷害保険（共栄火災海上保険・東京海上火災日動）について

事故1件 1件給付（58万円）。認定準備中1件

2023年4月から一人当たり保険料は月額27円（保険会社：東京海上日動保険）。

福利厚生共済

専業従業員のための諸給付部門

総加入者数は546人で前年比37人減少。給付金額は195.5万円（前年194万円）

加入者減により掛金収入が減少し、資産残高は15.4万円の減少。

無料職業紹介事業

2018年11月1日厚生労働省認可

メール・FAX・電話による求職の受付を行い、求人販売所へ紹介し販売所の労務難に寄与する。

取扱状況 求人数50人 成約21人
(2022/4/1～2023/3/31の分)

実施事業会計

○公益目的財産額 78,193,816円（2013年7月1日認定）

○2014年3月期から2040年3月期まで計27年間毎年300万円(最終年額調整)ずつで完了する。

○事業の種類

特定寄付のみ

寄付先 札幌市中央区中島公園1番15号

公益財団法人 札幌交響楽団

金額 300万円（寄付日2022年9月22日）寄付累計3,700万円

（2015年度1,000万円寄付により計画比700万円前倒し）

特定寄付予定残高 41,193,816円（2023年3月末時点）